

## 資料② SST（スーパーサイエンス・グローバルマインドセットテスト）について

大阪府立大手前高等学校・研究開発部

### SSTによるSSH事業評価

本校 SSH の研究開発の目的は、社会貢献意識の高い国際感覚豊かな「科学分野における日本・世界のリーダーの育成」である。そのために「論理的に分析・判断する力、全地球的視点に立ったものの見方、世界に向けての積極的に情報発信をする実践力」の育成を目指しており、その核が「科学するところ」の醸成である。各 SSH 研究開発事業の評価を行う上で、上に掲げた「力」や「ところ」を客観的・定量的に測定するために、本校では SSH 第 III 期においてスーパーサイエンス・グローバルマインドセットテスト（「SST」と略記）を開発した（別紙資料①）。SST では、本校 SSH で育成したい「ところ」と「力」を 10 個の因子に整理し、「ところ」と「力」がどれだけ育まれたかを測定することで、事業評価を行うものである。

A	知的好奇心 知的探究心	F	聞く力 質問する力 コミュニケーション力
B	問題発見力 問題解決力	G	チームワーク リーダーシップ フォロワーシップ
C	読解力 情報収集力	H	英語運用力
D	表現力 発信力	I	多様性の理解 コラボレーション力
E	論理的思考力 論理的表現力	J	社会貢献・国際貢献に対する意識 全地球的視点

SST で評価する「ところ」と「力」の 10 因子

### SST の因子の達成度測定の方法

SST では、上に示した A~J の 10 因子についてそれぞれ 3 つの質問があり、生徒は  $10 \times 3 = 30$  の質問について達成度を 5 段階で回答する。5 段階の回答は、「1」があてはまらない、「5」があてはまるとし、数値が高いほど目標とする「ところ」や「力」が身についていると判断する。測定結果については、各因子の 3 つの質問の 5 段階の平均値を算出し、各因子の達成度として評価する。

調査対象は第 1 学年から第 3 学年までの本校の全生徒である。実施形式は、質問紙とマークシートによる回答で、第 1 学年と第 2 学年は 12 月～1 月にかけて、第 3 学年は 9 月に実施している。対象学年において、各 10 因子の測定値が第 1 学年から第 3 学年にかけてどのように変動するかを検証することで、本校の SSH 研究開発事業を通じて、目標とする「ところ」と「力」がどのように身についたかを測定している。昨年度卒業生の 76 期生の検証結果を別紙資料③に示す。

### SST の因子を活用した他者評価・相互評価

SST は、生徒自身の自己評価に基づくものであることから、現在 SSH 第 IV 期において、SST 因子を活用した客観的・多面的評価方法の研究開発を行っている。例として、本校における SSH 事業の核である課題研究「サイエンス探究」「ライフサイエンス」での研究発表会において、見学生徒が SST 因子に準拠した項目で他者評価や相互評価を行う仕組みづくりに着手している（別紙資料③）。その結果、SST の評価において伸びが大きい部分と、他者評価で高く評価された部分に一致が見られるなど、SST を裏付ける結果を得ることができた。今後も、様々な評価に SST 因子を組み合わせ活用し、SSH 研究開発事業の客観的・多面的評価の確立を目指す。